

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2025年度) 評価結果報告書

2026年3月7日

社会福祉法人森友会
ほほえみの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	②	H0404082	☐ 福祉	☒ 経営
	③	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	ほほえみの森保育園			
事業所連絡先	〒	190-0022		
	所在地	東京都立川市錦町3-1-20		
	TEL	042-595-6930		
事業所代表者氏名	藤田 慎也			
契約日	2025 年	8 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2025 年	9 月	5 日	
利用者調査結果報告日	2025 年	10 月	28 日	
自己評価の調査票配布日	2025 年	9 月	5 日	
自己評価結果報告日	2025 年	10 月	28 日	
訪問調査日	2025 年	11 月	5 日	
評価合議日	2025 年	11 月	5 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査はインターネットでのウェブアンケート形態により、共通評価項目のほか、事業所と協議のうえ、独自の項目も設けて実施しました。 ・開始時には書面やポスター等で保護者の理解促進を図るほか、開始後にも提出御礼・促進用のチラシを全対象者に配信・配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めました。 ・事業所には開始時の説明や補足資料等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、よりの確な自己評価実施に配慮しました。			

2/32

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯33(在籍児童数40)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。
ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。
結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	40
利用者家族総数(世帯)	33
共通評価項目による調査対象者数	33
共通評価項目による調査の有効回答者数	23
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	69.7

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」78.3%・「満足」17.4%の計95.7%と高い値で、設問別では「子どもの興味・関心の伸長」「急な残業等への配慮」「職員の対応・身だしなみ」など、全17問中16問で80%台～100%の高い支持を得ている。
自由意見では「おむつのサブスクや連絡アプリの活用など、親の負担が軽減され、園側で用意してくれるものが多いので日々の持ち物も少なく済み、朝はさっと受け入れ、お迎え時はその日の出来事を丁寧に教えてくれ、連絡アプリにも日々の様子を細かに記載してくれ、どのように過ごしているのかよくわかる」「いつの間にか子どものできることがどんどん増えているのは園での生活の賜物で、年齢を問わずお友達と楽しそうに遊んでいる姿を見て、通わせてよかったと感じる」「異年齢保育でどの年齢の子たちとも関われ、先生との距離も近い」「先生方の雰囲気がよく、全先生が全園児の名前だけでなく、どのような子かを知っているだろうというところや、子どもの存在を認める言葉かけ、ハグやスキンシップを大切にしているところも気に入っている」などの声が寄せられている。
要望などとしては、子どもの様子の報告、食事に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	23	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者23人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「とてもそう思う」の1件があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	22	1	0	0
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっている。 自由意見には「とてもそう思う」の1件があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	20	3	0	0
「はい」が87.0%、「どちらともいえない」が13.0%となっている。 自由意見には「とてもそう思い、大変ありがたい」「いつも助かっている」の2件があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	17	4	0	2
「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が19.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	22	0	0	1
有効回答者22人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「急な残業や電車の遅延等で遅れる場合も快く対応してくれ、大変助かっている」「早く、また柔軟に対応してくれており、大変助かっている」「とても助かっており、遅くまでいつもありがたい」の3件が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	17	3	0	3
「はい」が85.0%、「どちらともいえない」が15.0%となっており、「はい」の値は前回(2022年度・以下同、63.6%)から改善されている。 自由意見は3件で、「とてもそう思う」のほか、保育中の安全管理について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	20	2	1	0
「はい」が87.0%、「どちらともいえない」が8.7%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は2件で、「土日にくれているのが助かり、時間も毎回工夫してくれている」のほか、要望などとしては、行事の日程などに関する内容があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	21	2	0	0
「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が8.7%となっており、「はい」の値は前回(78.3%)から改善されている。 自由意見には「不安なことやわからないことはすぐに聞くことができる」「過去に些細な疑問相談をした際にとても真摯に対応してくれ、まだ大きな相談機会はないが、必要になった時、気兼ねなく相談できると思う」の2件があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	22	1	0	0
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっている。 自由意見には「とてもそう思う」の1件があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	23	0	0	0
有効回答者23人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「とてもそう思う」の1件があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	22	1	0	0
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっている。 自由意見には「細やかに報告してくれ、翌日も気にしてくれて、大変ありがたい」の1件が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	12	4	0	7
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が25.0%となっている。 自由意見には「直接見ていないのでわからない」の1件があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	22	1	0	0
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっている。 自由意見には「寄り添ってくれてありがたい」「とてもそう思う」「普段どのように対応しているのか見たことがないが、対応してくれていると思う」の3件が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	18	2	0	3
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%となっている。 自由意見は2件で、プライバシー保護等への配慮について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	21	2	0	0
「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が8.7%となっている。 自由意見は3件で、「とてもそう思う」のほか、要望などとしては、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等の保護者との共有に関する声が見られた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	16	2	0	5
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見には「不満に思ったことはないが、些細な質問や相談にいつも真摯に対応してくれている」の1件があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	17	2	0	4
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
サブカテゴリ1(1-1)			
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当	
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
法人の理念や園の目標など、大切にしたいものを職員や保護者に周知させている 「すべての子どもの最善の利益のために」を法人の基本理念を掲げ、すべての子どもが自分のペースで園生活を楽しむ「心身の調和的発達」を促進するための5つの保育目標を設定し、職員へは採用の面接時の説明と、入職時からの法人内研修で理解を促している。保護者とは入園説明会での説明のほか、SNSでのコンセプトを伝える動画の発信や日常の保育活動の共有などを通じ、共通理解を深めている。また組織内では園長やリーダー層職員を中心に意見を集め、法人の理念が広く浸透するように話し合い、園の目標を決定している。 園長・主任が協力して現場への率先垂範に努め、園の運営の統括を行っている 園長は年度の初めに職務分掌表や保育士としての心構えを職員に周知し、法人内及び市の園長会に出席し、その内容を職員会議で伝えている。今年度は理念をより明確に説明し、主任の発信を通じて、園長やリーダー職員との協議により、理念に基づいた園目標のマインドマップを作成するなど、園長と主任が園の運営をリードしている。職員にはキャリアプランを面談で伝え、研修などの情報を伝える手段としても活用しながら、職員のスキル向上を促しており、社会や業界の変化にも柔軟に対応し、地域に求められ続ける園であることを目指している。 重要案件の決定手順が確立され、会議やアプリを通じて職員や保護者に伝えている 事業計画は法人の中・長期的な計画や園の課題を考慮し、主に園長が作成している。年間の保育の各種活動や計画については、園長・主任・フロアリーダーが参加する保育委員会で検討・決定を行っている。また、園内のさまざまな案件は、フロア会議や行事担当と主任の会議などで検討している。これらの内容は職員会議で周知され、非常勤職員などには職員会議録を通じて情報を共有している。年間行事などは職員用及び保護者用の配信アプリにて伝えるほか、法人や園での決定事項も、保護者に対して配信アプリや園内掲示で伝達している。			

2			カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリ-1 (2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当

サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
保護者や職員の意向を把握して検討し、次年度の計画や環境改善につなげている 保護者の意向を、面談や日常の会話で直接聴き取るほか、行事後のアンケートをアプリを通じて収集している。行事の開催時間などの意見は次年度の行事計画の立案時に検討しながら反映し、改善を図っている。また、定期的に受審する第三者評価の利用者調査も、保護者の意向把握の機会としている。職員の意向の把握の機会として、職員会議では意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけ、面談でも丁寧な聴き取りに努め、目標設定・自己評価の際には、園長・主任との面談で意向を把握し、内容に応じて今後の運営の改善などの参考としている。 園長会等で地域ニーズや業界の動向を把握し、課題を踏まえて計画・予算を作成している 待機児童の状況や育児困難家庭等の情報を、市の園長会や要保護児童対策地域協議会を通じて収集するほか、市役所への定期的な確認も行っている。業界全体の動向は、法人内の園長会や園長対象の勉強会などから把握し、市や都からの配信でも情報を得ている。園の収入や支出については、園長が毎月の月次試算表を作成して把握し、法人内の経費チェックを経て、園内のコスト削減に努めながら、補正予算や次年度予算に反映させている。これらの情報をもとに、園長が課題を抽出し、次年度の事業計画に反映させている。 園の事業計画に沿って予算を編成し、保育に関する各計画は担当者を中心に実行している 中・長期計画として、法人の10年計画が策定され、各園に周知されている。また園としての中・長期計画についても必要性が認識され、目下検討・作成中となっている。単年度の計画として事業計画を作成し、予算と併せて理事会の承認を経て決定されている。その他にも保育・食育・安全・保健・行事などの各計画が、年間と短期でそれぞれ作成され、保育や食育の年間計画は4期に分けて進捗管理を行いながら実施している。また行事では工程表に何をいつまでに行うかを明示し、担当職員が中心となって進捗管理を行い、当日の成果に結びつけている。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的を確認している。		☐ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		☐ 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー3の講評		
保育士としての心得を会議等で日常的に啓発し、不適切な保育の防止にも努めている 園長作成の「年度当初職員伝達事項」を全職員に配付して、職場内の人間関係や子どもとの接し方、保育士としての態度や服装についての説明を行っている。また、園内の掃除に関するルールも策定し、職員会議で主任がその内容を周知している。保育活動等で気になった場合には職員会議で共有し、巡回中に気になった点は疑問を投げかけるよう心がけ、個別に伝えている。不適切な保育の防止のため、チェックシートを用いて各職員が毎月振り返りを行い、法人内での事例も共有している。またチームで保育を行う中で、職員同士で注意し合えるようにしている。 苦情解決制度の整備・周知や、虐待等を防ぐための体制の整備がなされている 苦情解決制度を整備し、入園時の説明や玄関への掲示によって保護者に周知を図るほか、要望等を忌憚なく受け入れる旨を伝えている。要望が寄せられた際には主任が窓口となり、解決責任者は園長が務め、必要な機関との連携を図りながら、迅速に対応することを心がけている。職員会議で前述のチェックシートを用いて振り返り、園内での虐待防止の徹底に取り組むとともに、家庭での虐待等の早期発見・防止に向け、行政や子ども支援センター等の関係機関との連携体制を整えるほか、法人作成のマニュアルを常備している。 園の活動等をホームページなどで発信し、地域支援の拡充にも取り組んでいる ホームページやブログで法人や園の各種情報を発信し、定期的に受審する第三者評価についても、「福ナビ」を通じて結果を公表している。ボランティア等の受け入れ時には、マニュアルに基づいて説明を行い、守秘義務に関する同意を書面への署名にて確認している。地域の子育て世帯への支援事業は、7月から10月まで行われており、保育所体験や行事への参加、育児講座を実施している。好評も得ていることから、今後は園見学者も含め、年間を通じて実施したいと考えており、利用の促進を促すための広報の工夫についても模索している。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1 (4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2 (4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
事件事例等の把握・検証をはじめ、安全の確保に向けた取組を行っている 各職員に事故を未然に防ぐためのヒヤリハットの把握を促し、報告書への随時の記入と組織内での供覧によって共有を図っている。また子どものケガ等の事故が発生した場合には、遅滞なく関係職員間で検証し、原因や再発防止策を明らかにするとともに、職員会議での報告などによって組織内で確認している。事故等の毎月の集計も行い、傾向の把握に活かすほか、法人が随時発信する系列園の事例を「安全レポート」として共有するなど、安全の確保に向けた取組を行っている。子どもの睡眠時の状態確認など、日常的なSIDS対策にも取り組んでいる。 災害・不審者対策や、各種リスクを想定したさまざまな対策に取り組んでいる 年間計画に基づく毎月の避難訓練では、地震・火災について、発生時の時間帯・状況などさまざまなシナリオを想定して実施し、訓練後には反省を行って次回に活かしている。基盤的な災害を想定したBCPは、感染症用と災害用の2種類を策定し、基本方針や必要な体制・対応などを文書化しており、災害用の備品は毎年更新している。また、警察署員による不審者対応訓練や消防署による救命救急・消火訓練も実施され、看護師を中心に、感染症や夏季の熱中症など、季節や内外の状況に応じて重要性が増すリスクへの対策も講じられている。 情報の利活用と漏洩防止のための環境を整備し、関係者への啓発・説明を行っている 園で扱う情報の重要性を考慮し、職員の入職時には、個人情報保護規程に記載される法人・職員の義務、管理責任者、利用目的に基づく制限などを説明し、入職及び退職時に誓約書を提出させるほか、必要に応じて職員会議でも再周知を行っている。また、グループウェアやクラウド上の共用データベースを利用した法人内の情報共有に加え、PC内の情報漏洩防止のために、職員ごとに権限を設定し、外部記憶媒体の使用は許可制としている。保護者には入園前に個人情報の利用目的などの説明を行い、同意書の提出により確認を行っている。		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準项目实施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
求める人材の採用に向けた法人・園での工夫や、適材適所の配置の実現に努めている 採用に関しては、法人のウェブサイトやSNSを通じた情報発信に加え、在職者からの紹介制度や就職祝い金、産休・育休制度などの工夫も設け、各園での見学や面接を通じて必要な人材の確保につなげている。面接では、新卒者には統括園長が対応し、中途採用者には近隣の園長も同席し、理念に共感し、協調性のある、チームとして活躍できる人材の採用を行っている。異動については、本人の希望が尊重され、主任以下は園長、園長は法人が決定している。園内では本人の意向を考慮しつつ、バランスを見て、共通認識を持てるようなチーム構成としている。 法人共通のキャリアパスや育成計画を踏まえ、各職員の成長を支援している 法人内で「キャリアパスプラン」が策定され、当園ではこれに基づいて個別の研修計画を作成し、法人内の研修などに参加してもらっている。「キャリアプラン考察シート」には、プライベートや仕事における5年後・3年後の自分、やりたいことや、当年度の目標を記入してもらい、園長との面接によってそれらを共有しており、「振り返りシート」を用いて半年ごとに自身を振り返り、後期の目標を決定している。その後、園長や主任の評価に基づいて、賞与や人事に反映されている。研修参加後の報告書は、内容に応じて職員会議やフロア会議で共有している。 チーム保育を活かした連携や意向把握などで、職員のモチベーションを上げている 組織力を向上させるための研修や、自己及び他者の理解を深める研修を実施し、組織力を高めるだけでなく、園内での懇親会や法人全体の忘年会を通じて関係性を構築している。フロア会議では職員から意見を募り、保育委員会での検討や園長の判断を経て保育や環境に反映させ、職員のモチベーションを引き出している。シフト管理は主任が担当し、ストレスチェックや体調管理、チーム保育を活かした連携・協力体制を通じて、休暇や休息の確保に努めている。業務の見直しを行い、残業時間の削減などの職員の負担軽減に取り組みたいと考えている。		

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 当園では、子どもの思いや意図を丁寧に読み取り、保育者の主観ではなく「子ども主体の姿」を客観的にとらえることを目指しており、保育の質や専門性の向上につなげることを目的として、職員間で子どもの育ちを共有する取組を行っている。子ども主体の保育を実現するために、子どもの活動や思いを「ドキュメンテーション」によって写真を用いて可視化し、保育者がその姿をより専門的な視点でとらえ、俯瞰して考察できるようにすることを目標としている。 一例として、日常の保育の中で子どもたちの発想から生まれた、紙粘土を使ったパン作りやアイドルショーなどの活動を、ドキュメンテーションとして記録・可視化し、子どもの思いや育ちの過程を職員間で共有しながら、子ども主体の保育についての理解を深めた。これに関連し、日々の園生活の中で子どもの気づきや取組・成長を、保護者にもより具体的に発信するため、ドキュメンテーションの配信の頻度を、それまでの毎日の配信から週1回の発信に変更し、内容の質を高められるようにした。また、春祭りを3月に開催し、保護者に日々の遊びを見てもらっており、各活動コーナーでの成果の発表も行った。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 子どもたちの興味や発想をもとに活動を展開し、保育者が子どもの意図や育ちを意識してとらえる姿勢が定着してきた点で、経営層は取組に一定の成果が見られたと考えている。また、ドキュメンテーションを通じて子どもの姿を共有する機会が増え、職員間の子ども理解も深まっている。一方で、子どもの姿を振り返り、主体的な活動を支える意識が広がったものの、ドキュメンテーションの活用方法には課題が残ったほか、上記の春祭りは年間行事に組み込まれていなかったため、参加できない保護者もいたことも反省材料となった。 今年度は職員間で記録や振り返りの方法を共有し、保育の質の向上を図ることを目指している。掲示の数も増えてきたことで、非常勤職員を含めた意欲向上とスキルアップにもつながっているが、記録の仕方や振り返りの職員での活用方法にはまだ差があり、継続的な取組が今後の課題となっている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

安心・安全な環境が整っていない場合、子どもは自発的に活動することができず、学びや遊びの機会が制限される。これを踏まえ、園・法人の理念や基本方針の実現に向けて、保育の質の向上と子どもの安心・安全の確保を重要な課題として位置づけ、保育者間での観察や記録の充実、環境点検の徹底を具体的な目標とした。また、そのための取組として、日常の保育活動の中で子ども一人ひとりの発達や意欲に応じた支援を行い、遊具や室内環境の安全管理を強化した。

系列園の見学を通じて他園の保育実践を学び、自園での工夫に活かすとともに、子どもの興味や発達に応じた教具・教材を充実させ、活動の幅を広げるために各コーナーを分け、0歳児がはさみに触れない工夫や誤嚥防止策なども講じた。

さらに、保育者の専門性向上を目的に外部研修に参加し、観察力や指導力の向上を図ったほか、子どもたちにも散歩などの園外活動を積極的に推進し、体験を通じた学びや社会性の育成につなげている。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていない

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

安全向上の取組は、保育委員会が中心となり、課題を出し合い、今後の方向性をすり合わせながら、子どもが主体的に遊べる環境づくりと専門性の向上を進めた。経営層は、子ども主体の保育の実践や保育者の専門性向上に向けた環境整備、研修、園外活動などは計画通りに実施でき、概ね目標を達成したと考えている。

今後の課題としては、安心して活動できる環境と職員間での学びの共有が図られている一方で、記録の活用方法や職員間の共有の深まりにはばらつきが見られている点があり、今年度は記録や振り返りの方法を職員間で統一し、より効果的に活用できる仕組みを整え、保育の質向上と子どもが安心して主体的に活動できる環境の維持・充実を図っている。また園内外の学びの機会を継続的に採り入れ、子ども一人ひとりの育ちを丁寧に支える保育実践の定着を目指している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
各種媒体を活用して、法人の大切にしている保育や施設に関する情報を発信している 系列園共通の保育理念「子どもの最善の利益のために」及びその実現に向けて大切にしている保育の取組である「誉める保育」「異年齢の関わりを大切に」「子どもの主体性を尊重する」を、法人のホームページで紹介している。見学者への配付やホームページ上で閲覧可能となっている「コンセプトブック」では、より詳しく内容を紹介している。運営する各園を紹介するページが設けられ、当園のページでは、施設の基本情報、1日の流れ、年間の行事予定などのほか、ブログを通じて日常の様子を発信し、SNSを通じて園長や職員が園の魅力を発信している。 市の各種媒体を通じて園の情報が確認できるほか、イベントで園の紹介を行っている 園が所在する市のホームページでは、市内にある保育施設の情報を発信しており、当園を紹介するページでは、保育の理念や方針とともに、施設の基本情報を掲載している。市が作成する冊子「保育施設利用申込みのしおり」や「子育て応援ブックHiチーズ」にも、市内にある各保育施設の情報を掲載し、市のホームページや関連施設等で入手可能となっている。年1回、パネル展示を通して園を紹介する、市の「ほいくのひろば」にも参加して広報に取り組んでいる。 見学では、園の保育等の特色を伝え、保育所体験を通じて園を知る機会としている 園の見学の申し込みは、電話等で随時受け付けている。子どもの活動している様子が見られる平日の午前中の時間帯で見学を行っており、申込者の都合に応じ土曜日等の日時に調整するなど、柔軟な対応に努めている。配付する園や系列園共通の保育内容を紹介するパンフレット等や、園内の掲示物をもとに、保育の考えや環境構成、園の取組などを説明している。質疑応答も行い、入園に対する不安の解消に努めている。月1回土曜日に行う保育所体験では、園児との交流を通して園を知ってもらう機会としている。		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園前に利用開始にあたっての説明と同意確認を行っている 入園前には説明会を開催し、利用開始にあたっての説明を入園内定者向けに行っている。「入園のしおり」や重要事項説明書に沿って、保育の理念・方針や保育で大切にしていること、各種重要事項のほか、登園や保健、食事など園を利用するにあたっての各種約束事を、プレゼンテーションソフトを活用して、園長や主任が説明を行っている。年齢ごとに異なる持ち物等の準備物は、面談時に伝えている。適宜、質疑応答を行って不明点等の解消を図り、重要事項等の説明や個人情報の取り扱いに対する保護者の同意確認は、所定の様式で行っている。			
入園後の支援に向け、入園前の面談や提出書類を通じて親子の状況を確認している 説明会後には個別の面談を行い、入園後の支援に必要な親子の状況を確認し、組織内での情報共有によって、統一した認識のもとで支援を行えるようにしている。「個人調査票」等の保護者から提出される各種書類を参照しながら、保護者の就労状況や保育に対する意向、入園前までの子どもの生活状況や生活リズム、健康や発達状態などを聴き取り、必要に応じて情報を追記している。食物アレルギー等の健康上の配慮が必要な場合は、入園後の個別の支援に活かせるよう、看護師が面談に同席して詳しい状況の把握に努めている。			
園の利用開始時には、親子の不安に配慮し、利用終了後の関係継続に努めている 園の利用開始時には、一週間を目安に、保育の経験の有無等の子どもの状況や保護者の就労状況等に応じた期間で、保育時間を徐々に延ばしてゆく「慣らし保育」を行い、期間中の子どもの様子等をもとに必要なに応じて日程を調整するなどして、新たな環境で生活を開始する子どものストレス等に配慮している。保護者にも安心してもらえるよう、降園時には写真等を用いて当日に子どもの様子を丁寧に報告することを心がけている。卒・退園した子どもたちには夏祭りの招待状を送るほか、来訪する卒園児には「もりんびっく(運動会)」への参加を呼びかけている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

記録と対話を通して、子どもの育ちを保護者と継続的に共有している

身体測定は毎月実施し、結果をアプリで保護者と共有している。保育経過記録は年齢別の主な発達の現れに基づくリストを毎月確認し、年度当初に所見、年度末に総合所見を記載している。満3歳までの子どもや特別な配慮を要する子どもについては、個別の指導計画を作成している。日々の保育の様子は送迎時の対話や連絡帳に加え、写真とコメントによる「ドキュメンテーション」を掲示して伝えている。保護者会では年間目標や発達の特徴、成長の見通しを説明し、園便り等で月の目標や実践の要点、活動の様子を継続的に発信している。

フロア会議での情報共有に取り組み、多角的な視点でのチーム保育に努めている

乳児・幼児のフロア会議を原則月1回実施し、保護者対応や行事準備、個別対応など緊急性の高い事項は随時共有することとしている。会議では環境構成の工夫や子どもの育ちにに応じた援助配慮、食事面や健康面について検討している。今年度からは子どもの興味や活動の広がりを図式化し、事務室に掲示して職員が自由に書き込める形で活用している。こうした情報の共有は、多様な視点を踏まえた計画立案と、フロア全体を見通した判断や対応を促すだけでなく、職員がチームとして、保育の一貫性を意識する機会にもなっている。

全体的な計画から、長期・短期の保育計画のほか、食育・保健の計画を策定している

全体的な計画を踏まえ、年間を4期で構成する長期の保育計画を作成している。計画には各期のねらいに加え、養護と教育のねらいを、保育所保育指針におけるいわゆる「10の姿」との関連がわかる形で示し、子どもの育ちの目安や見通しとして位置づけ、長時間保育や異年齢保育、保護者支援についても明記している。これらをもとに、子どもの姿から短期的な週案へと展開し、年齢別のねらい、環境構成、援助・配慮、個別配慮を具体的に記載し、食育・保健・行事に関する計画も作成している。各種計画は周期ごとに振り返りを行い、次の計画へ反映している。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
子どものプライバシーや羞恥心への配慮に努め、個人情報管理を行っている 排せつの失敗があった際にはさりげなく対応し、子どもの自尊心を傷つけないよう配慮した援助を行っている。着替えの際にはブラインドを下げるなど、外部からの視線を遮る工夫を行い、全裸にならないよう着替える順番を知らせるなど、羞恥心への配慮を大切にしている。おむつ交換台はトイレ内に設置し、幼児のトイレには扉付きの個室が設けられている。個人情報の取り扱いについては、入園時に書面を用いて利用目的を説明し、保護者の同意を得たうえで管理し、外部と情報を共有する必要がある場合には、そのつど保護者の同意を確認している。 子どもとの適切な関わりをマニュアルに示し、徹底に向け研鑽や点検を行っている 食事や排せつ等の生活の各場面における、職員の言動や接し方に関するOK・NG例や好ましい・好ましくない伝え方等を示した、系列園共通の「職員の心得マニュアル」を整備し、入職時の研修で学ぶ機会を設けている。新入職員は「OJTスタンパラー」を通じた教育や法人の主任グループが作成した資料を通じて、子どもとの適切な関わりについて学んでいる。また、「虐待防止チェックシート」を使用して子どもとの関わりについて、毎月の振り返りと自戒を職員に促すほか、結果に応じて指導等の必要な措置を講じることとしている。 「虐待防止マニュアル」を整備し、研鑽等によって理解深化と意識継続を図っている 系列園共通の「虐待防止マニュアル」を整備し、家庭における虐待防止に向け、虐待の定義や園の役割、虐待の早期発見から通告の手順など示したフローチャートを定めている。同マニュアルに沿って、職員は登園時の視診等から虐待の早期発見に努め、兆候を察知した際は、関係機関への通告と連携を図る体制となっている。保護者支援に関する都のキャリアアップ研修を対象となる職員が受講し、知見の共有によって組織全体で理解を深められるようにするほか、関連する行政等からの伝達等を職員と共有し、意識継続を図っている。			

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
法人や園作成の各種マニュアルを整備し、業務の基本等を示している 「職員の心得マニュアル」に、勤務の心得や保育の基本としての子どもの人権への配慮すべき事項を、「保育マニュアル」に食事・睡眠・排せつなど生活の各場面における援助等について定めるほか、感染症対応や事故・危機管理対応などの保健・安全面に関わる業務全般に関わる手順を示した系列園共通のマニュアルを整備し事務室に設置している。園作成の「ほほえみマニュアル」には、保育や食事提供にあたっての考え等を示し、新入職員向けのマニュアルとするほか、会議等で話し合って決めた各種ルールやの経緯を「共通認識マニュアル」にまとめている。 マニュアルに示す業務の標準の徹底に向け、研鑽や訓練を行っている 職員の入職時には、法人研修にて「職員の心得マニュアル」をもとに勤務にあたっての心得や保育の基本を伝えている。また園では、新入職員用の「ほほえみマニュアル」を通じて、保育や食事提供の方針を伝えるほか、所定の各種基本業務をOJT等によって学び、スタンプラリー形式で習得を確認する仕組みも設けている。常勤職員を対象に消防署の指導による応急救護の訓練を行うほか、SIDSやアナフィラキシーショック、熱性けいれんの発生を想定したAEDや心肺蘇生法などの訓練を、隔月で行って緊急時に対応できるようにしている。 保護者の声や園内の各種話し合いをもとに業務等を見直す仕組みを整備している 保護者の要望・意向等は、登降園時の対話や連絡帳、面談等の機会のほか、行事後に行うアンケートや第三者評価受審時の利用者調査で把握し、行事・保育等の園運営全般の見直しに活かしている。フロア会議では各フロアの折々の課題解決に向けた検討が行われるほか、各種業務に関する具体的なルール等について会議で話し合い、結果とその経緯をファイル「共通認識」にまとめている。職員が参画する各種委員会が設けられ、保育や食事、安全やICT等の分野における業務を見直す体制を整えており、散歩マップの見直しや業務の効率化等を図っている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
子どもが主体的に人・もの・ことに関われるよう、環境構成の工夫に取り組んでいる 発達の過程や生活環境を踏まえ、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで、保育計画を参考に用いながら、日々の姿に応じた保育を行っている。子どもが主体的に人・もの・ことに関わるができるよう、コーナー構成や玩具は定期的に見直し、配置換えや入れ替えを行っている。フロアは年齢を目安に空間を分けつつ、どこでも自由に過ごせる環境としており、生活の動線のほか、遊びの人気や遊び方などを考慮して空間の構成を調整している。教具は子どもの興味や発達に応じて選定し、手作り教材も採り入れている。 異年齢の子どもたちの関わりを通じて育ち合いが促されている 発達の異なる子どもたちが、生活と遊びをともにする中で、育ち合いが促されている。年上児は年下児に優しくしようとしたり、遊びを教えようとしたりする姿が見られ、自信や自覚が芽生えるほか、年下児には、年上児への憧れが生まれ、意欲や生活習慣、遊びの広がりにつながっている。時に生じる発達や遊び方の違い等によるトラブルには、保育者が双方の気持ちを聴き取り、受け止めたうえで関わり方を伝えている。必要に応じて保育者が手本を示しつつ、子どもが自ら言葉で伝えようとする姿を尊重し、先回りせず見守ることを大切にしている。 個々に応じた支援やトラブルへの対応に努め、小学校との連携に取り組んでいる 特別な配慮が必要な子どもについては、他の子どもとの生活を通してともに成長できるよう、個別の指導計画を策定し、職員が個々の特性に応じた援助に努めており、巡回相談時に得られた専門家からの助言を援助の参考としている。発達の過程で生じるけんかやかみつき等のトラブルに対しては、子どもの状況を保育者間で共有して未然に防げるよう努めるほか、起こってしまった場合には、痛みや気持ちに寄り添い、言葉の使い方や関わり方を教えている。就学に向けて、小学校の授業内で実施する祭りに遊びに出かけるなど、小学生との交流の機会を設けている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登園時には子どもの状態の確認に努め、降園時にはその日の様子を保護者に伝えている

登園時には、保護者から家庭での子どもの様子を聴き取り、体調や機嫌など普段との違いがないかを視診と併せて確認するほか、0・1歳児では検温を実施し、「受入・受渡連絡票」に記録している。咳や鼻水、疲れが見られる場合には頻回に視診を行い、体調の変化に備えている。連絡帳の内容は職員間で共有し、看護師も全クラスを巡回して情報を確認している。受け入れ時に特別な要望があった場合は職員間で共有し、降園時にその日の様子や対応等を保護者に伝えるほか、活動の様子を写真とコメントで伝える「ドキュメンテーション」を掲示している。

水分や休息を自分で選べる環境を整えるなど、子どもたちの生活面の意識を養っている

休息や水分補給については、子どもが自分のタイミングで行えるよう、ポットやコップを身近に用意し、生活の流れの中で無理なく取れる環境を整えている。乳児は午前寝・夕寝など一人ひとりの生活リズムや体調に応じて対応し、幼児クラスでは眠るかどうか、眠る時間やタイミングを子ども自身が選択できるようにしており、主体性や意思の尊重を大切にしている。睡眠時にはSIDS対策としてSIDSチェック管理表を活用し、呼吸の有無や体位、表情などを定期的に確認し、安全で安心できる睡眠環境の確保に努めている。

発達段階に応じた生活習慣の獲得への援助を行っている

発達の状態に応じて、食事や排せつなど基本的な生活習慣の大切さを伝え、無理のない形で身につくよう援助している。食事の摂取状況や排せつの様子はそのつど記録用紙に記入し、子どもの変化や育ちの過程を把握している。排せつの自立に向けた援助は、おむつ替えを通じて、言葉を使って清潔の心地よさを伝えるところから開始し、排尿間隔や子どもの意欲・興味を踏まえて声をかけ、成功した場合には喜びを共感して、感覚を掴めるようにしている。また嫌がる場合や遊びの途中では無理強いせず、気持ちを尊重しながら関わることを大切にしている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

多様なコーナーを設け、遊びを選べる環境を整え、作品の展示から満足感を育てている

発達異なる子どもと一緒に過ごしていることを踏まえ、子どもの関心や発達を踏まえた多種多様なコーナーを設定し、教具の内容は毎週見直しを行っている。フロアは年齢を目安に空間を分けつつ、どこでも自由に過ごせる環境とし、子ども自身が遊びを選択し、自発的に遊び込めるようにしている。遊びの展開への配慮では、集中を妨げないよう遊び込んでいるところへの声かけの頻度を調整し、見守っている。また保育室内や廊下には、子どもの作品を展示し、子どもが自分の経験や表現を振り返りながら、満足感や充実感を得られるようにしている。

集団活動や行事を通して協力・共同の喜びを味わい、ルールや気持ちの調整を学んでいる

子どもが協力・共同の喜びを知ることができるよう「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育を保育目標の一つに掲げており、オペレッタや英語といった年齢ごとで行う集団での活動や、遠足や夏祭り、「もりんびっく」「フェスティバル」といった集団で楽しむ行事を採り入れている。活動を通じて、協力・共同の喜びを味わうだけでなく、ルールを守って遊ぶことや、相手の気持ちを考え、自分の気持ちを調整することを学んでいる。また集団活動では消極的な子どもに対して無理強いすることなく、本人の意欲の高まりを尊重した援助・配慮を心がけている。

子どもの発想を起点に遊びを広げ、見立て遊びから本物の体験へと学びを深めている

子どもの発想や「やってみたい」から活動が広がり、さまざまな学びを得られるよう、子どもとの対話を心がけ、ものや情報の提供に努めている。段ボールをベッドや釣り堀に見立てた遊びをきっかけに、魚の制作や釣り堀屋さんのごっこ遊びへと発展し、実際に釣り堀に出かけるなど本物に触れる経験へとつながっている。またアイドルショーの遊びでは、衣装づくり・曲決め、キャッチコピー、ショーの構成を子どもたちが行い、披露している。衣装づくりの過程では、アイデアを得るために、ドレスショップやアクセサリー屋さんの見学にも出かけている。

4 評価項目4		日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価		標準項目			
☒ あり ☐ なし		1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし		2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし		3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		☐ 非該当	
評価項目4の講評					
行事は日常の経験を広げて共有する機会とし、保護者と子どもの育ちを共有している 行事を特別な成果を求めて練習を重ねる場とはとらず、日々の生活や遊びの中で子どもが興味や関心を持って取り組んできた経験を広げ、共有する機会として位置づけている。行事の内容や進め方は、子どもの姿や関わりを振り返りながら職員間で検討し、見通しを持って参加できるよう準備を行っている。また、親子でともに参加する行事を通して、子どもが安心して挑戦する姿や、友達や大人と関わる様子を保護者が身近に感じられるようにしている。家庭と園が育ちを共有できる機会として行事を実施している。 「フェスティバル」では、オペレッタを通して子どもが表現する体験を重ねている 「フェスティバル」では、オペレッタを発表している。複数の物語に触れる中で、子どもの興味や意見、日常の遊びの広がりやを踏まえて内容を選び、取り組んでいる。決められた型に沿って練習を重ねるのではなく、子ども同士が動きや役割を教え合ったり、表現の仕方を話し合いながら工夫したりする過程を大切にしている。活動を通して、表現することへの楽しさや自分なりに表す喜びが育まれている。当日は、完成した姿だけでなく、取り組む過程や一人ひとりの関わりが伝わるようにし、保護者に日頃の育ちや実践の様子を披露する場として実施している。 子どもたちそれぞれに友達や保護者と関わりながら、行事の楽しさを味わっている 四季折々の伝承行事については、由来や意味を絵本や話を通して丁寧に伝えながら、豆まきごっこや歌、餅つきなど、子どもが親しみやすい形で体験できるようにしている。体験にあたっては、季節の移ろいや行事に込められた願いに触れられるよう配慮している。また、夏祭りや「もりんびっく(運動会)」などの行事では、友達や保護者と一緒に参加し、ふれ合いや協力を楽しめる内容を探り入れている。準備や活動を仲間とともに進める経験を通して、人との関わりや行事の楽しさを感じられるようにし、日常の生活や遊びとつながる行事として実施している。					

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

長時間保育でも安心して過ごせるよう、生活リズムに応じた個別の配慮を行っている

保育時間が長くなる子どもが安心して過ごせるよう、くつろげる環境づくりと一人ひとりの生活リズムに応じた配慮を行っている。休息や水分補給については、子どもが自分のタイミングで行えるよう、ポットやコップを身近に用意し、無理なく生活の流れの中で取れるようにしている。乳児は午前寝や夕寝など体調や生活リズムに応じて個別に対応し、幼児は眠るかどうか・眠る時間を自分で選べるようにしている。また情緒面の不安が見られる場合には、気持ちに寄り添った声かけやスキンシップを行い、安心して過ごせるよう配慮している。

合同保育など形態が変わる時間帯も、年齢に応じて遊びや休息を選べる環境を整えている

保育時間が長くなる中で、合同保育など保育形態が変化する時間帯においても、子どもが楽しく過ごせるよう環境や活動内容を工夫している。夕方以降は年齢や発達に応じた過ごし方を大切に、静かに過ごせる遊びや好きな遊びを選べる環境を整えている。0歳児は落ち着いて過ごせる空間で絵本や紙芝居に触れ、幼児は室内遊びや園庭で身体を動かすなど、活動にメリハリを持たせている。また、各階とも教具や教材を充実させることで、遊び込むことも休むことも選択でき、無理なく自分のペースで過ごせるようにしている。

子どもが健康的に園で長時間を過ごせるよう、さまざまな配慮を行っている

登園時には、受け入れ時の健康観察と保護者への口頭確認を通して、その日の子どもの健康状態を把握し、必要に応じて活動内容や関わり方に反映している。18時以降は補食・夕食を提供し、アレルギーのある子どもも安全に食べられる体制を整えている。補食は家庭での夕食に影響が出ない量や内容とし、補食・夕食ともに、ゆっくりと家庭的な雰囲気の中で食事ができるよう配慮している。入園時には「慣らし保育」を実施し、子どもの様子や保護者の事情に応じて期間や時間を柔軟に調整しながら、無理なく長時間保育へ移行できるようにしている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもが食事の始まりから終わりまでを自分で選び、主体的に行えるようにしている

食事を「決められた時間に与えられるもの」ではなく、子ども自身が始める生活の一部として位置づけている。食事時間は11時から13時を目安に、子どもが「食べたい」と感じたタイミングで、手を洗い着席する流れを大切にしている。自分の名前が呼ばれるのを待ち、配膳者と対話しながら、自分が食べたい量や気分を伝えて盛りつけてもらうことで、食べる量を選んで食事に向かう経験を重ねている。食事は一緒に食べたい仲間と囲み、終了後は食器を自分で片づけるなど、開始から終了までを主体的に行動する力と、生活を自分で整える姿勢を育てている。

喫食状況を活かし、多様な食事を体験できる給食を提供している

給食は、子どもの喫食状況や気づきをもとに、検食や給食会議で献立や味付けを見直し、より食べやすくなるよう改善を重ねている。献立は和食を中心に、洋風・中華風の食材や調理方法も採り入れ、果物を添えるなど、さまざまな体験を重ねられるようにしている。食物アレルギーのある子どもには除去食対応を行い、体調や文化の違いにも配慮するなど、安心して食事ができる環境を整えている。世界各国の料理や行事に合わせたメニュー、色や形にも工夫した献立を採り入れ、食事を楽しみながら、さまざまな国の文化や季節の行事に親しめるようにしている。

子どもの食への興味や関心を深め、食と関わる経験を重ねられるようにしている

食育活動では、食べることが日々の生活の中にある営みとして感じられるよう、育てる・作る・味わう経験を大切にしたり関わりを行っている。栽培から調理、実食までを一連の体験として位置づけ、食の連続性を大切にしたり活動を行っており、トマトやスイカ・オクラ・ナスなどの野菜を育て、水やりや観察を通して、花が実へと変化していく過程に気づく姿が見られている。また収穫後はクッキング活動へとつなげ、1・2歳児はゼリー型の抜き、3歳以上児は果物の皮むきや包丁を使った調理、おにぎり作りなど、年齢や発達に応じた体験に取り組んでいる。

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている ☐非該当
評価項目7の講評	
子どもを見守りつつ、啓発を通じてケガ防止や病気予防に対する意識を高めている 子どもが「ケガをする権利」を大切と考え、職員は子ども一人ひとりの様子の把握と遊び等の活動の見守りに取り組んでおり、保育者から交通マナーや安全な遊び方、使用してよい遊具等の約束事を、散歩や遊びの前に子どもたちに伝えている。4・5歳児は、年度によって警察署による交通安全教室で交通マナーを、立川の防災館で地震と火災による避難方法を学ぶ機会を設け、危険に対する意識を育んでいる。日々の生活の中では手洗い等を促し、看護師による手洗いや歯磨き、プライベートゾーン等の指導によって、病気予防等に対する意識を高めている。 健康の維持管理に向け、健康状態の把握に努めている 入園時の面談では、提出書類や面談を通じて、食物アレルギー等の健康上の配慮事項の有無を含む子どもの健康に関する情報を確認し、かかりつけ医からの助言等があれば個別の援助に活かしている。登園時には、受け入れる職員の健康観察や、連絡帳や保護者への口頭確認によって、当日の子どもの体調を確認するほか、看護師が各クラスを巡回するなどして、子どもの健康管理に取り組んでいる。嘱託医とは、各種健診による健康状態を定期的に確認し、保護者等からの相談等で健康の気になる点は、健診の際に嘱託医に相談できる体制となっている。 入園時に保健に関わる約束事を伝え、保健に関する情報を提供している 保護者とともに子どもの健康を支えられるよう、入園時の説明会では、与薬、体調や感染症罹患時による登園の基準などの保健に関する約束事を伝え、理解と協力をお願いしている。SIDSについては、園の予防策を説明するほか、行政のポスター掲示や保健便りを通じて保護者の啓発を行っている。また、季節に応じた健康を維持するための留意事項なども保健便りを通じて保護者に情報を提供している。子どもが感染症に罹患した際は、発生状況の園内掲示によって保護者に注意を喚起し、まん延防止に努めている。	

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者が子育てを楽しく感じられるよう、対話を大切に寄り添った支援に努めている

お迎えの重なりで困難の場合もあるが、降園時には一言添えて子どもの様子を伝えるなど、保護者との対話を大切にし、気軽に話しやすい雰囲気作りに努めている。日々の登降園時や面談等を通じて寄せられる育児等の相談には丁寧な対応を心がけている。保護者の事情に応じた時間での登園のほか、就労等による急な延長や土曜保育のスポット利用にも柔軟に対応し、エプロン等の園提供やおむつのサブスクリプションを利用可能とすることで保護者の負担軽減を図るなど、保護者に寄り添った支援に努めている。子育てが楽しく感じられることを大事にしている。

行事への参加を通じて保護者同士の交流や養育力向上を支援している

夏祭りや「もりんぴっく(運動会)」「フェスティバル」等の保護者が参加する行事は、保護者同士が交流する機会となっており、積極的な参加が得られるよう土曜日に開催し、見通しを持って予定を立てられるよう、年度当初に年間の行事予定を配信している。クラス別の保護者会では、事前に保護者から募ったテーマをもとに意見交換を行って交流を図るとともに、子育ての一助の場となるようにしており、担任からは生活の各場面における声のかけ方などを説明している。また年1回、年度によって異なるテーマをもとに、保護者向けの育児講座を開催している。

園の取組等への保護者の理解が深まるよう取り組んでいる

保護者に日頃の子どもの様子を見てもらうとともに、クラスの活動に参加してもらうことで、園の保育を体験する保育参加の機会を、今年度から設けている。保護者会では、動画や写真等を用いて子どもの様子を伝えており、子ども同士のいさかきの動画では、この体験が子どもの心の成長につながるよう、職員が援助していることを説明している。系列園共通の大切にしている保育や、戸外活動の目的、子どものケガする権利などの保育内容や考えを、保護者会や園便り等を通じて保護者に発信し、理解を深められるよう取り組んでいる。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域資源を活用して子どもたちに多様な体験の機会を設けている 近隣の地域資源を活かして、子どもたちが多様な体験や交流が行えるよう取り組んでいる。日々の散歩では、公園で昆虫等を探したりボールを使って遊んだりするほか、近くの市の施設「未来センター」の芝生で遊んでおり、気づきや興味・関心につながるよう、職員が子どもたちに声かけを行っている。4・5歳児は、未来センターのスタジオを月数回利用し、園ではできないダイナミックな遊びに興じ、年長児の「デイキャンプ」では、八王子の市民プールに遊びに行っている。クッキングで使用する食材の購入で、近隣の八百屋等に出かける機会を設けている。 行事等を通じて地域の多様な人々との交流が行われている ハロウィンでは、子どもたちが仮装して園周辺にある近隣の蕎麦屋や美容室、パン屋を訪ね、イベントならではの交流を行っている。また勤労感謝に因んで、消防署や未来センター、花屋等に子どもたちが制作したカードを渡して日頃の感謝の意を伝えている。就学に向けた取組では、年長児は近隣の小学校で1年生の児童や同年代の他園児と交流するほか、年に数回他園の5歳児とお店屋さんごっこ等を通して遊ぶ機会を設けている。在園児は、月1回土曜日に保育所体験で地域の未就園児と過ごし、受け入れる実習生等と保育を通して関わり合いが持たれている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	「ドキュメンテーション」を通じて、保育の可視化に注力している	
内容①	コメントと写真を添えて掲示や配信する「ドキュメンテーション」を通じて、幼児フロアの遊びや乳児の玩具・環境構成の紹介、行事の様子、折々の子どもの様子や各クラスの取組を継続的・定期的に発信している。活動を通じた子どもの気づきや取組のねらいの伝えたい内容に応じた様式を使用するなどの工夫をしながら、保育の可視化に取り組んでいる。保護者に子どもの姿や園の取組を伝える媒体としての利用だけでなく、職員の子どもへの理解を深めるとともに、今後の活動を展開するうえでの検討資料として活用に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	園目標の設定や自己・他者の理解を深める研修など、チームワークの向上を図っている	
内容②	園の課題や改善点を抽出しつつ、子どもの主体性を重視した保育室の環境整備や、安全性の確保に向け、園内外でさまざまな研修に取り組んでいる。また組織力を向上させるために必要な知識やスキルを習得し、組織の力を高めるための研修や、自己理解と他者理解を深めることを目的とした研修を通じ、良好な人間関係の構築を図るほか、チームワークを促進するために「子どもも大人もわくわくして輝ける園」という園としての目標を掲げ、自分たちの思いをマインドマップで表現し、検討を重ね、わくわくして輝ける園を目指して取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	子どもの気づきや興味・関心に沿って、地域との関わりを広げている	
内容③	日々の遊びを通して高められた子どもの興味・関心をもとに近隣の商店等の見学を行っている。アイドルショーの遊びから化粧への興味につながり、隣の美容院を見学したり、魚釣り遊びから釣り堀での魚釣りを体験し、さらに夏祭りの魚釣りゲームに発展させたほか、夏祭りのお店屋さんごっこに向けて、近くの商店等を見学している。また、子どもたちの興味・関心等の様子を踏まえて、4・5歳児の遠足先を職員が考えた2か所を子どもたちが選択し、八王子の施設ではボタン押しを楽しみ、立川の施設では工作や楽器演奏を体験している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの「やってみたい」を起点に、遊びが制作や体験へと広がる環境を整え、日常生活の中で学びが連続して深まる保育実践に努めている
	内容	子どもの「やってみたい」「おもしろそう」という思いを起点に、遊びや活動が広がるような関わりと環境構成を大切にしている。コーナー構成や教具は、子どもの関心や遊びの様子を踏まえて定期的に見直し、子どもが主体的に人・もの・ことと関わられるよう工夫している。また子どもの発想や対話を手がかりに、見立て遊びやごっこ遊びで生まれた興味が、制作活動や調べる活動、実際の見学や体験へと発展し、日常生活の中で学びが連なっている。行事においても、日々の遊びや関心を基盤に内容を検討し、経験を広げて共有する機会として位置づけている。
2	タイトル	遊びや食事、休息などの場面で過ごし方を自分で選べる環境を整え、それぞれの子どもの自らの意思で決める力を育てている
	内容	生活と遊びのさまざまな場面で、子どもが自分で選び、決める経験を大切にしている。保育室には多様な遊びのコーナーや教具を用意し、子ども自身が遊ぶ場所や内容を選んで遊び込める環境を整えている。食事や休息、水分補給においても、始めるタイミングや過ごし方を子どもが選べるよう配慮している。長時間保育の時間帯では、遊ぶこと、休むことの両方を選択できる環境とし、一人ひとりの生活リズムに応じた過ごし方を保障するとともに、自分の気持ちや状態を確かめながら行動を選ぶ経験の積み重ねから、主体的に生活を整えようとする力を育んでいる。
3	タイトル	さまざまな取組を通じて、保護者との良好な信頼関係につなげている
	内容	日々の降園時等での保護者との対話を心がけ、育児の相談に応じるなどの保護者の事情に寄り添った支援に努めている。子ども一人ひとりの様子は、口頭に加え、連絡帳アプリを用いて乳児は毎日、幼児は週1回以上保護者に報告している。保護者会や園便りを通じて、法人が大切にしている保育や戸外活動の目的等を発信し、保護者の理解が深まるようにしている。掲示や配信するフロア便りや「ドキュメンテーション」では、子どもの様子とともに、取組を通じた子どもの気づき、取組のねらい、幼児の遊びや乳児の手作り玩具など、多様な内容を保護者に発信している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	作成中の園としての中・長期計画には、目標達成と成果につなげるための工夫にも配慮し、次年度以降の推進に活かされたい
	内容	法人の10か年の中・長期計画が今年度更新され、各園に展開されており、園単位でも、当園固有の課題等を踏まえ、中・長期的な計画の検討・作成を進めている。単年度にとどまらず、複数年度にわたって取り組むべき課題として、人材育成や保育活動に関する取組を主任とともに検討しており、法人の理念などをもとに、数年後に目指す園の姿を明確にした計画の策定と、年度の事業計画への反映が期待される。各計画の推進においては、定量・定性的な成果指標の設定や工程表等の作成、定期的な振り返りなど、着実に達成へと向かうための工夫も期待したい。
2	タイトル	注力する「ドキュメンテーション」のさらなる活用に向けた今後の工夫を期待したい
	内容	写真とコメントを用いた「ドキュメンテーション」を通じて、室内に設定した各コーナーの内容やねらい、遊び等の子ども活動の様子の発信に注力しており、取組のねらいまたは子どもの気づきの伝えたい内容によって様式を変えている。保護者への発信だけでなく、折々の子どもの様子を組織内で共有する資料としても活用している。制作したドキュメンテーションを時系列で整理し比較することで、子どもの成長・発達を理解する資料や現場の実践知を蓄積することで保育実践のノウハウとするのに有効と思われ、さらなる活用に向けた今後の工夫を期待したい。
3	タイトル	保育活動における課題の抽出と改善で職員のスキルアップに取り組んでおり、今後はその成果が実感できるための仕組みづくりに期待したい
	内容	組織内の保育委員会では、環境整備や異年齢での関わりなど活動における課題を抽出し、検討・改善を進めている。経営層は、研修や学びの成果を効果的に活用するための仕組みづくりや、各職員が研修をどのように活動に活かしたかの確認を、課題として認識している。そのための工夫として、「振り返りシート」の項目に加え、面談で確認をするなどといった、次年度に活かせる仕組みづくりについても考慮する余地があると思われる。研修や目標の明確化など、職員のスキルアップに向けた取組の機能を高め、各人の成長の実感にもつなげることが期待される。